

# 『AI は鉄腕アトムの夢を見るか？』

西脇市病院事業管理者・病院長 岩井正秀

最近、医療 DX と呼ばれる医療体制のデジタル化を厚生労働省は強く推し進めている。そこにはマイナンバーカードの利用も組み込まれている。病院など臨床の現場でも、その対応を早急に考えなくてはならない。また、AI (人工知能) に関する情報を耳にすることも多い。AI の進化には凄まじいものがあり、医療の面においても、その活用には目を見張るばかりだ。昔には思いもよらなかったことが、AI によって次々と可能になっている。しかし忘れてはならないのは、あくまでも AI は一つの道具であり、重要なのはそれを使う人間だということである。途方もない大量のデータを集め、深く学習し、AI は様々な提示を行う。生成 AI ばかり、ChatGPT ばかりである。それらを見て、私は驚きはするが、そして感心はするが、しかし感動はしない。

かつて昭和 40 年前後に少年期を過ごした私達にとって、鉄腕アトムというのは特別な意味を持つ存在であった。まだ白黒だったアニメをテレビに嘯り付いて見ながら、自分達の未来を思ったものだ。物語では、人間とロボットの共存する世界で色々な事件が起こるが、結局は人間の善悪が大きなテーマであった。正義感を持つ鉄腕アトムのおかげで、日本人はロボットに対する親近感が欧米よりも強いという説もある。外国では、今や古典となった映画「2001 年宇宙の旅」や「ブレードランナー」など、人工物の反乱や人間との戦いを描いたものも多い。これらはコンピューターやアンドロイドが感情を持ち、自己防衛を始めたときの恐ろしさを語っている。

さて、この頃の AI である。信じられない程の進化の速度に、人間は付いて行くことができるのだろうか。人の感情も突き詰めれば複雑な化学反応の結果であるとすれば、それを AI が学習し獲得する可能性は、絶対に無いと言えるのだろうか。原子力を例に出すまでもなく、人は自らが作り出したものから恩恵のみを受け取っているわけではない。SNS や生成 AI も同様である。それらを扱う側が、成熟し、堅実に制御できなければ、その弊害は必ず現れるだろう。

根拠にもとづく医療 (EBM) が重要だと言われて久しい。かつて、悪性疾患を持った患者さんに治療法の選択肢を提示し、それぞれの治療法による 5 年生存率を説明したことがあった。どの治療を選ぶかという話になって、その患者さんは静かな声で、こう言った。「あのね先生、いろんな数字を言ってくれましたけどね、私にとっちゃあね、詰まるところ、生きるか死ぬか二つに一つなんです。そこんとこ、先生わかってらっしゃいますか？」

AI も、ビッグデータと呼ばれる莫大な根拠を抱え込んでいる。医療に関する AI はそれらを分析して、素早く答を出してくるだろう。しかし、医療 DX や AI がいくら進んでも、まだこの先も、人間が人間を診るということが、医療の本質であることは変わらない。我々は AI の能力を有効に活用しながらも、人として患者さんと向き合い、そして、患者さんの心を思い、体に触れて診療を行わなくてはならない。そのことゆえに、古くから、医療行為は「手当て」と呼ばれており、それは、AI には決して及ぶことのできない領域なのである。

2024.11.30